

研究課題：慢性骨髄性白血病に対する減量チロシンキナーゼ阻害薬の有効性に関する後方視的研究

研究の概要：慢性骨髄性白血病は、有効な治療薬の開発により治療成績が著しく向上した疾患です。とはいえ、薬だけで治癒する可能性はまだ確立されておらず、現時点では生涯内服を続ける必要があるとされています。しかし、薬の副作用で継続が難しくなったり、薬の減量が必要となることが少なくありません。また、高価である薬価を負担に思われる患者さんもいます。薬を減量した場合の治療成績、安全性についてはほとんどデータがありません。当院において、副作用などの事由により薬を減量して治療を続けた患者さんの治療経過を検証し、薬の減量が患者さんの不利益になるかどうかを検討しました。将来的に、慢性骨髄性白血病の治療方法の幅を広げ、患者さんに貢献することを目指しています。

対象：2006年4月1日から2017年8月31日の間に、治療薬を6ヶ月以上減量して治療された慢性骨髄性白血病の患者さん23例を対象としています。

研究の方法：診療録、検査結果を元に、患者さんの治療成績を後方視的に解析します。

倫理的配慮：個人情報保護は十分に配慮を行い解析します。個人名が特定されないよう、患者さんの情報は匿名化の上利用されます。上記対象に該当する患者さんで、本研究への登録をご希望されない方は下記までご連絡ください。

日本赤十字医療センター 血液内科

研究責任医師：吉識 由実子

電話番号：03-3400-1311(代表)